

第 50 回 防災カフェ (Web) を開催しました。



ウィズ・コロナ時代の大雨避難「#生かせハザードマップ」

ゲ ス ト : 矢守 克也 さん

(京都大学 防災研究所 教授)

槇原 聡美 さん

(岡山県倉敷市真備町・川辺復興プロジェクトあるく・代表)

日 時 : 2020 年 9 月 1 日 (火) 17 時 ~ 18 時 30 分

ファシリテータ : 大山 武人 さん

(NHK 天津放送局放送部チーフ・アナウンサー)

今回は、NHK ラジオ特集番組「ウィズ・コロナ時代の大雨避難」の中で「オンライン防災ワークショップ」として開催し、俳優の三倉佳奈さんや熱心に防災活動に取り組む大学生の参加もありました。参加者の皆さんがハザードマップをもとに大雨時の避難のスーパーベスト(理想的で余裕を持った避難)、ベスト(各自治体が指定している避難場所への避難)、そして、セカンドベスト(避難が遅れるなどしたとき、土壇場で身を守るための次善の避難)を発表し交流しました。

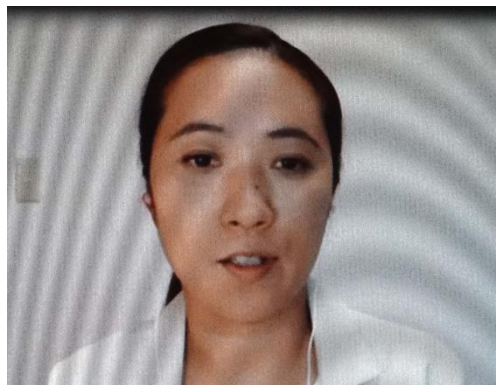
まず、矢守さんのハザードマップについてのお話、「最近、被災した人が『私の人生でこんなこと一度もなかった』と言われる大雨が多いのですが、ハザードマップで予測されていることも多いので、自宅の危険を確認しておくことが大事です」が紹介されました。

浸水や土砂災害ハザードマップには、大雨による浸水深の予想が色分けして示され、土砂災害の危険か所もわかります。土砂災害は発生後の避難が難しく、事前の避難が必要です。避難先や避難路に危険がないか確認することも大切です。危険エリアの外側でも、災害の可能性があるので周りの状況等に常に気を配ることも大事だということでした。



ゲスト : 矢守 克也 さん

次に榎原さんから、西日本豪雨の時のお話がありました。ご自宅のある川辺地区は、99%以上の家屋が床上浸水し、榎原さんのお宅も2階の床上10cmぐらいまで水がきたということでした。ハザードマップは知っていたけれど、豪雨の前に知人から「川辺地区は5m以上浸水するので、地区内に避難所がない」と聞いていたことで避難ができたそうです。ハザードマップを一人で見て理解するのは難しく、今回のように、みんなで見てみて、意見を出し合うことが大事だということでした。



ゲスト：榎原 聡美 さん

三倉さんからの「ハザードマップに1000年に一度の雨が降った場合、0.5~3m浸水するなどとあるのですが、1000年に一度なので起こらないと考えていいんですか。」という質問に、矢守さんから「1000年に一度というのは確率のことなので、今年、起きるかもしれません。そう思ってハザードマップを見るのが大切です。」という説明がありました。

参加者の皆さんから、調べた結果の発表がありました。その一部を紹介します。

- Aさん：土砂災害の危険があるので自宅外に避難することになります。特別警報が出た平成25年の台風では道路が膝まで浸水し、床下浸水2軒、土砂災害が2か所ありました。
- Bさん：私の地域には浸水と土砂災害の危険があります。自宅は丘陵地にあり土砂災害の危険があります。避難勧告が出た場合は市民センターに避難することになります。
- C(大学生)さん：実家は河川と大阪湾の間の海拔-1.8mにあります。堤防が決壊すると、5~10m未滿の浸水想定です。自宅での垂直避難は難しく、指定避難所の学校の3階以上に避難しますが、収容人数に限界があります。今日、ハザードマップを調べて水害時対応避難ビルの方が近いことや近くのマンションも標高が高いことを確認できました。
- D(大学生)さん：今の場所は、浸水も土砂災害もハザードマップでは恐れはありません。でも絶対はないので、周りに危険な川がないか調べておくことも大切だと思っています。
- Eさん：今回ハザードマップを見直して、隣の市の小学校がスーパーベストとわかりました。距離も約1kmで指定避難所よりも近いのですが、行政区域が違うので問題もあると思います。地区内には昔から避難に使っていた寺院の御堂もあります。
- Fさん：地区内の5m超の浸水域では水平避難ですが、2mまでの所は基本的に自宅での垂直避難ということになります。水平避難の場合、早くからの避難所開設が必要なこと

と、コロナ禍で全員収容できない現状が課題になります。

榎原さんは、自分や家族にとって最適な避難場所を3つ考える「マイ避難先」という防災活動に取り組んでいるということです。災害時には想定外のことが起きるので1つに決めてしまうと、そこにこだわりすぎて危険が迫ることがあります。西日本豪雨の時に榎原さんは隣地区の指定避難先に入れず、冠水した中を自動車で移動し自宅にもどったということでした。最初から隣の市の実家に避難しておけば、危険を冒す必要はなかったということで、最適な避難場所を前もって考えておくこと大切さを身をもって感じたそうです。榎原さんにとってスーパーベストは実家だったのです。避難先をあらかじめ考えておくと、避難開始の時刻や持ち出すものも決まってきます。避難の「きっかけ」ですが、自分に身近な人の声が一番で、榎原さんの場合は、娘さんの「避難しよう」という言葉でした。子どもは「こわい」気持ちをストレートに出すので、それが『避難スイッチ』になった人たちは早く避難できたそうです。

矢守さんから「あらかじめ決めた避難所まで行くのにかかる時間をみんなで考え、実際にみんなで試してみる。そうするといろいろなことがわかります。やってみることが大事です。」というお話がありました。

垂直避難について、榎原さんから『階段を水が少しずつ上がってくる時の恐怖』、『家具が倒れる時の大きな音による不安』、また、多くの方が垂直避難し救出を待つことになる、配慮を要する方の命が危険になる可能性があります。浸水域以外に避難できる方はなるべく早く避難して、指定避難所でなければならない方のために場所を空けておいて、怖い思いをする人を少しでも減らす、命を落とす方を一人でも減らすということを心がけていきたいと思っています。」という貴重な体験を踏まえてのお話がありました。

放送の最後に、矢守さんからの「榎原さんが避難のときに右往左往されたという話を聞いて、その右往左往をその時になってからではなく、事前にそれをやっておけば、いい意味での右往左往、思考錯誤になります。避難場所＝指定された所という考えに囚われずに、セカンドベスト（次善の場所）を事前にみんなで探してみる。その時にハザードマップを活用する。そんな学びがありました。」という言葉が印象に残りました。

放送終了後に、ヤフー株式会社のエンジニアで、滋賀県在住の山城さんから、滋賀県と

Yahoo! JAPAN とのキャンペーン「#生かせハザードマップ」と Yahoo! JAPAN の防災への取り組みについての説明がありました。

【滋賀県と Yahoo! JAPAN とのキャンペーン「#生かせハザードマップ」】

滋賀県と Yahoo! JAPAN とは災害協定を結んでいて、今日 9 月 1 日に、ハザードマップへの関心を高めることを狙いにスマートフォンによるオンラインでの防災訓練のキャンペーンを行ったということでした。内容は「Yahoo!防災速報」アプリを使い、「滋賀県からの緊急速報」としてハザードマップの確認方法の動画と滋賀県のハザードマップの※URL を配信し、見た方にアンケートに回答していただくというものでした。



滋賀県危機管理センターでの参加の様子

【Yahoo! JAPAN の防災への取り組み】

Yahoo! JAPAN の「Yahoo!防災速報」は、災害に関する情報などを早く受け取ることができるアプリです。

「Yahoo!防災速報」の「災害マップ」機能は、防災情報を避難行動に繋げるために、利用者から投稿された様々な情報を地図上で確認できるもの、「防災手帳」機能は、災害への備えと緊急応急処置がわかるもの、「災害カレンダー」は、これまで起きた災害と専門家からのアドバイスなどを見ることができるものです。また Yahoo! JAPAN 全体では災害募金活動、防災意識の啓発などもしているということでした。Yahoo! JAPAN は過去にも大きな災害が起きると、この前の西日本豪雨災害もそうですが非常の多くのアクセスが来ます。今後も有事の際に正確な情報を速くいつでも参照できるように努めていくということでした。

矢守さん、榎原さん、大山さん、参加者のみなさん ありがとうございました。

※Uniform Resource Locator : ネット上の情報の住所を表す記号